

# 遠隔授業で理科実験

## 県教委 小学生向けもスタート

### 上文殊小にメダカ卵映像配信

理科好きの子を増やそうと

県教委は本年度、これまで中高生に行ってきた遠隔授業の対象を小学生に広げ、理科実験の配信を始める。初日の8日は、福井市上文殊小と坂井市の県教育総合研究所をインターネット電話「スカイプ」でつないでメダカの卵の拡大映像をライブで流し、理科の楽しさを伝えた。

同校5年の授業で実施した。研究所の上中一司理科教育課長(51)が先生役を務め、所内のサイエンスラボで飼育するメダカの映像を、デジタル顕微鏡などを使ってライブ

配信した。

自己紹介後、児童たちは校内での観察結果を報告し「メダカの卵の周りには毛のようなものは何ですか」と疑問点をぶつけた。上中課長は「卵はどこに産み付けられていますか? 卵がつるつるだったらどうなると思いますか?」と問い掛け、卵を拡大した映像を流し「水草にくっつけるためにあるんだよ」と明かした。

さらに倍率を上げ、赤く鼓動する心臓や血の流れる様子がモニターにくっきりと映し出されると、児童たちは

デジタル顕微鏡を使い遠隔授業を行う県教育総合研究所員＝8日、坂井市の同研究所



「おーっ、動いている」と驚きの声を上げ、画面に見入っていた。

授業後、「学校で見えなかったことが観察できてうれし。メダカに詳しくなった」と喜んでいました。遠隔授業は、県内すべての

公立学校に導入されている「遠隔授業・研修システム」を活用した。研究所には高度な実験機材が充実しており、昨年度は中高生を対象に計50件の理科実験配信を実施した。

(中野克規)